

子供の事故を防止しよう

日常生活における事故

東京消防庁管内では、平成22年から平成26年の5年間で、595,911人が日常生活における事故により救急車で病院に運ばれました。平成26年中は127,106人でした。

その中でも、5歳以下の子供（以下、「乳幼児」という。）と高齢者の救急搬送人員が多くなっています（図1参照）。乳幼児は危険に対する認識が乏しく、危険を回避する能力が未熟です。家族など周囲の人が、過去にどのような事故が発生しているかを知り、事前に対策をとることで、重大な事故から子供を守りましょう。

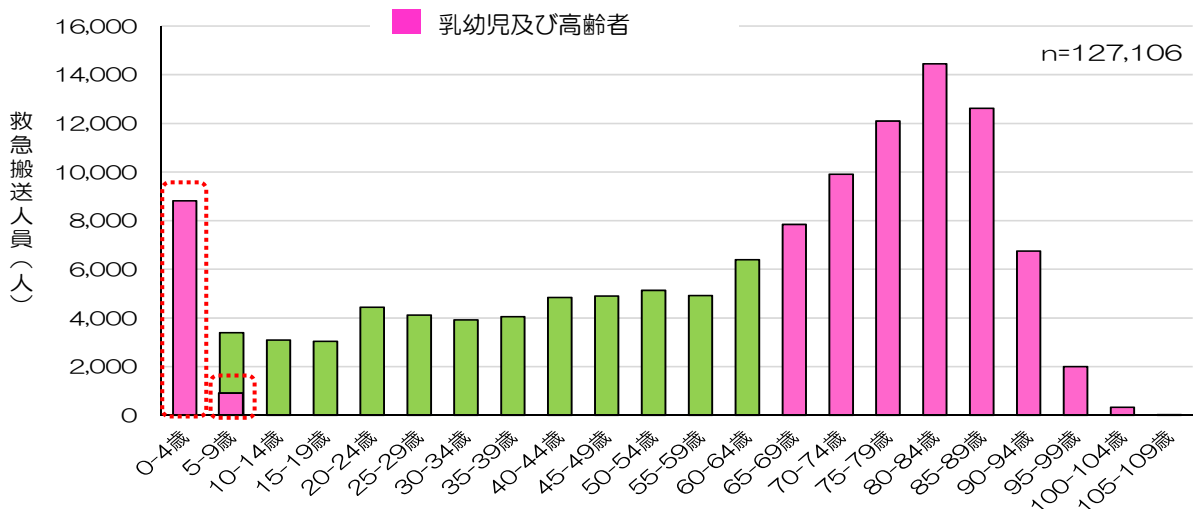
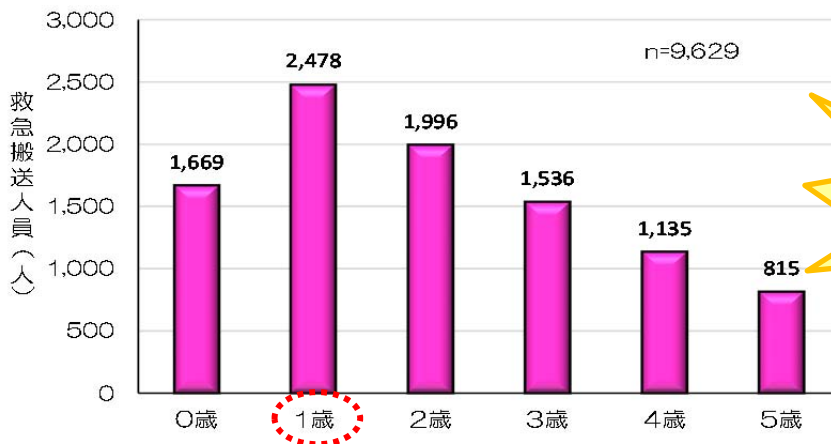


図1 年齢層（5歳単位）別の救急搬送人員（平成26年中）

子供の事故発生状況

平成22年から平成26年までの5年間に44,798人の乳幼児が救急車で病院へ運ばれました。平成26年中は9,629人が搬送され、過去5年間で最も多くなりました。

年齢別では、1歳が最も多く、次いで2歳となっています（図2参照）。



乳幼児の中でも1歳が最も多い

乳幼児に多い事故と中等症以上の割合別救急搬送人員（平成26年中）

乳幼児の事故の形態と入院が必要とされる中等症以上の割合をみると、救急搬送が多いのは「落ちる事故」「ころぶ事故」となっています。

また、中等症以上の割合が高い事故では、「おぼれる事故」「やけど」「落ちる事故」となっています（図3参照）。

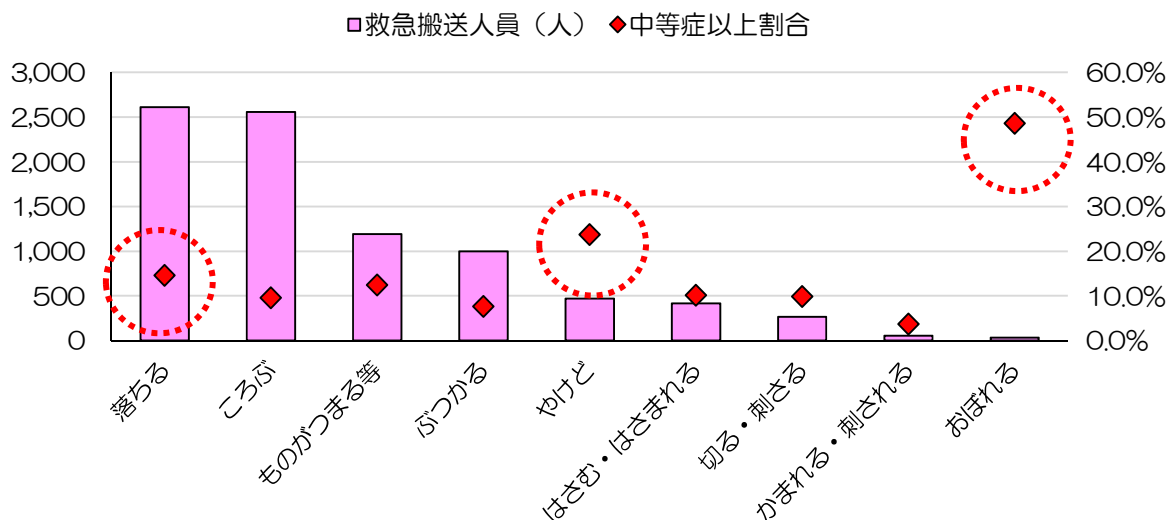


図3 乳幼児の事故の形態と中等症以上の割合

重症度の高い事故

自宅の浴槽での「おぼれ」

おぼれた場所の第1位は、自宅の浴槽です。

【事例】 11か月の女児が兄弟と母親の3人で入浴していた。母親が兄弟の世話で目を離している間に、女児が浴槽内で溺れていた。
(程度 中等症)



子供の「おぼれ」を防ぐために

- 乳幼児をお風呂に入れている時、水遊びをさせている時は、決して目を離さない。
- 子供だけで浴室に入れないようにしておく。

こんな事故にもご注意！

首掛け式浮き輪での事故

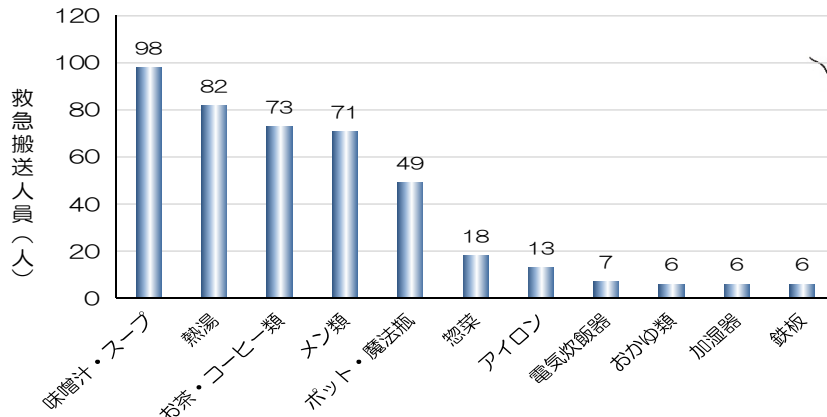
首掛け式浮き輪を浴槽で使用して、保護者が目を離した時に乳幼児がおぼれる事故が発生しています。



「やけど」

味噌汁やお茶など、熱い液体でのやけどが多いです！

【事例】1歳の男児が、テーブルクロスを引っ張り、テーブルに置いてあったスープがかけられ腹部を受傷した。（程度 中等症）



(平成26年中にやけどの事故が多かった要因)

子供の「やけど」を防ぐために

- やけどの恐れのあるものは、子どもの手の届くところに置かない。
- 子供を抱いたままの調理や、熱いものの飲食をしない。

こんな事故にもご注意！

電気ポットのコードに引っ掛かる

7か月の男児が、床の上に置いてあるポットのコードに引っ掛かってポットがひっくり返り、沸騰した湯をかぶって受傷した。（程度 中等症）

子供を抱いたままの飲食

1歳の男児が、母親に抱っこ紐で前に抱かれた状態で寝ていた。母親が味噌汁を食べている最中に男児が目を覚まし暴れた際に、味噌汁が左頬にかかり受傷した。（程度 中等症）

ベランダや窓から「落ちる」

子供が住宅のベランダや窓から落ちる事故が、繰り返し起きています！

東京消防庁管内で、平成22年から平成26年までの5年間に、5歳以下の子供115人が、住宅等の窓やベランダ*からの墜落により医療機関に救急搬送されています。

なお、平成27年（速報値）は19人でした。

※1階、天窓を除く



【事例1】1歳男児が、3階居室内の窓側に置いてあるソファーに乗り、開放されていた窓枠に手を掛け（ソファーから窓枠までの高さ約1m）乗り越えて1階地上部分に墜落した。（程度：重症）

【事例2】1歳女児が、5階窓枠に干していた布団に直接よじ登り窓から墜落した。（程度：重症）

窓やベランダからの落ちる事故を防ぐために

○ 窓際やベランダには、子どもが登れるようなものを置かない。

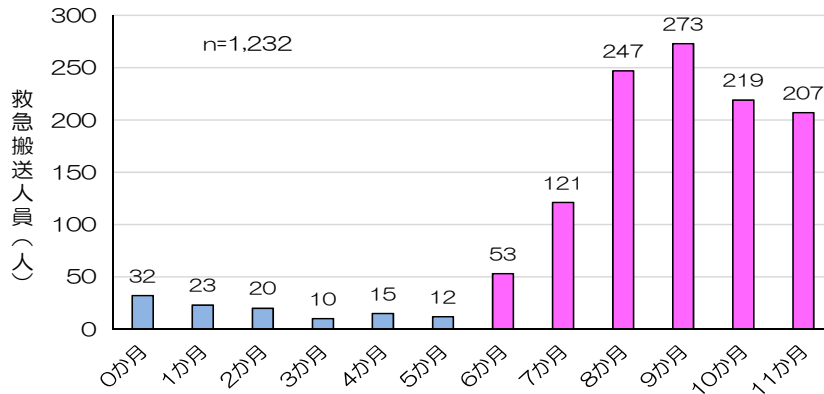
- ・踏み台、エアコンの室外機、植木鉢などを置く場所にも注意しましょう。
- ・ベランダへの出入口の窓などには、鍵を二重に設ける等の措置を講じましょう。

◆ 窓際では、ソファーや室内用ジャングルジムを足場にしたと推定される事故も発生しています。

◆ 子供は日々成長し、行動範囲が広がっていきます。昨日上れなかった場所に、今日は上っているかもしれません。

窒息・誤飲

6か月になったら、何でも口に入れるようになります。



0歳児の年齢(か月)別救急搬送人員(平成26年中)

【事例1】10か月の女児が、自宅で煎餅を食べていて突然、喉に詰まらせた。(程度 重症)

【事例2】1歳の男児が、体温計に入っていたボタン電池を飲み込んだ。(程度 中等症)



窒息や誤飲を防ぐために

- 家の中は、子供の目の高さで危険がないかチェックする。(飲み込めそうなものを、子供の手の届くところに置かない)
- 灯油、ボタン電池など、誤って飲み込んだ時に危険性の高いものは何かを知っておく。
- 食べ物は、年齢に応じた大きさや形にして食べさせる。食事中びっくりさせない。

こんな事故にもご注意ください！

洗濯用パック型液体洗剤の誤飲事故

【事例1】2歳の女児が、自宅洗面所の棚上に置いてある洗濯用パック型液体洗剤を踏み台に上って取り、半分飲んでしまった。その後、嘔吐が3回あり洗剤の匂いがしたため、母親が救急要請した。(程度 重症)

その他、過去に重症または重篤と診断された事例として、プチトマト、スーパーボール、ゴム風船、ピーナッツなどがあります。